

ほとけの 混和会だより

令和三年一月

東光院

仏の混和会

第151号



謹賀新年

皆様のご健勝とご多幸を
お祈りいたします

令和三年元旦



新型コロナウイルスの感染
拡大は未だ収束の兆しを見
ることが出来ません。
ご縁を頂いた皆様にかかれま
しても未曾有の災禍の中、大
変なご苦勞をされておられる
ことと存じます。

先を見通す事が困難な状
況ではあります、
一日も早い収束、並びに
皆様のご健康とご繁栄を
心よりお祈り申し上げます。

今、世の中は大混乱の中
にあります。
近年益々激化している異常
気象や自然災害、その被害
の対応が追いつかない状況に
ある中、追討ちをかけるよ
うに発生し感染が世界中に
拡大してしまつた、新型コロ
ナウイルス。
これによって私たちの暮らし
は一変してしまいました。
今まで当たり前前にできてい
た行動が当たり前ではなくな
ってしまいました。

このような状況下に於いて
私達はどのように生きてい
行つたら良いのか、ウイルス
感染収束に向けてどこまで
自粛すれば良いのか、そして
安心に満たされる日々を歩
むにはどうしたらよいのか、
私達に投げかけられた避け
て通る事の出来ない、大きな
課題かと思ひます。

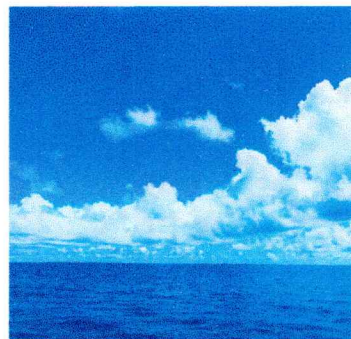
異常気象や自然災害、又
新型コロナウイルス、これら
は何が原因でここまで拡大
してしまつたかと言うと、大
自然の営みによる自然の再
生を超えた日々の生活、世
界中が競い合う経済発展、
この私達人類の欲望が大き
く要因して居るようです。
しかし薄々感じては居ても
止められないのが現実です。

この状況を改善すべく、
管総理や小池東京都知事
は、二十五年までに温室
効果ガス排出量を0にする
と宣言されました。

更に世界的に十年後には
ガソリン車の販売は禁止の
方向に進めて行くよう
です。

本年度は世界各地に於いて
過去の価値観を改め、
自然を尊ぶ新たな価値観に
大きく舵を切る歳に成るも
のと思われまふ。

東光院と致しましても、
真の価値観が得られるよ
う、自然との共生に着目し
て参りたいと存じます。



くうき色
ぜせ是
そく即
しき色

ある時、釈尊の弟子で智恵

第一と言われた舍利子尊者は

観音様に尋ねました。

「すべての苦しみから救われる

般若波羅蜜多とは、一体どのよ

うな修行なのでしょうか」

すると観音様は、

「舍利子尊者よ、形あるものは

空に他なりません、といって空で

あるからこそ、形ある一瞬を生

きているのです。

空という変わりゆく世界、変わ

りゆく毎日の中で変わりゆく

自分が、今この瞬間をたしかに

生きているのです。」

と静に答えられました。

物も心も大海原の波の如く、

大空の雲の如く一時も同じ形を

とどめる事はありません、変わり

ゆくものにとられ執着する事

は無意味な事です。と観音様が

舍利子尊者に説かれた教え、

これが般若心経です。

思うがままにならない時だか

らこそ、己の思いにとられる事

も執着する事も無く、全て修行

と受け止め努めて参りたいと存
じます。

亮観拝



日本仏教に登場する仏様を毎号少しずつご紹介。今回は今年の干支に因んだ「牛」の登場するお話を紹介します。

●「十牛図」

十二世紀頃中国で書かれた書物に、人が悟りに至るまでの道のりを童子が牛を得る様子に例え、十枚の絵で示した「十牛図」という物があります。牛とは悟りの比喻です。このお話は童子が牛（悟り）の存在を知り「探し行こうかな」と思う絵から始まりです。

二枚目にて牛の足跡を見つけるが牛は見当たりません。牛を獲るためには必死に探し（勉強し）三枚目で牛の姿らしき物を見つければ、四枚目で牛を自分の物にするため奮闘し、そして五枚目でやっと牛を捕えます。そして捕まえた牛が逃げない様、しっかり手懐ける（修行）様子が描かれています。六枚目にて牛に乗り家へ帰ります。これは自分と牛（悟り）が一体となった事（悟り）が、七枚目の絵には

家に帰った童子だけ描かれ、牛がいまません。更に八枚目では丸い円だけで何も描かれていません。いざ牛（悟り）を獲ると、自分が偉くなったと勘違いするため牛を忘れ、牛に執着する自分自身も忘れなくてはならないそうです。

そして九枚目には草花が描かれています。固定概念を捨てて見た自然の中にこそ真の悟りが有るのだと伝えていきます。実は牛は最初から近くに存在していたのに気がつけなかっただけなのです。最後の十枚目の絵では、童子は布袋さんに姿が変わり子供と談笑をしている場面で終わります。

十牛図における最終目標は牛と（悟り）一心同体となった上で身分も地位も能書きも捨て、誰とも溶け合い、布袋さんの様に笑顔一つで人を幸せにできる人間になりなさい。と言う教えです。



今年も精進しなければなりません。亮澄拝

コロナ禍にあつても 貴方も観音様



「観音様の前世」観音様は幼少の頃ソウリと言う名前で弟のソクリと両親、四大家族で幸せに暮らしておられました。しかしその地域が大変な干ばつに見舞われ両親を失い、自らも様々な悲しみや苦しみを経験されて、補陀落と言う嶋で二人はお亡くなりになりました。

二人の兄弟は嶋の波打ち際で己の死を受け入れる決心をされた時、自ら経験した苦しみや悲しみによって、人の痛みが分かる大いなる慈愛心に目覚め、その後西方浄土の阿弥陀さんの元でソウリが観音様に成り、ソクリが勢至菩薩と成り慈悲心を持って人々を守護され苦難の道を救済されました。私達も、このコロナ禍の苦難の経験が無にしないように自ら観音様の如く人の痛みが分かる己と成るよう努めて参りたいと存じます。 亮観拝



十二月十七日 岩井植木様より 松の剪定の奉仕を賜りました。

十二月二十日（日曜） 境内の大掃除をしました

日増しに感染者の増加が放映される日々、恒例と成った大掃除を執り行うべきか中止すべきか思案に暮れる毎日でした。しかし「室外での掃除は三密を避けられるから大丈夫ですよ」と役員さんから後を押されて決行を決意致しました。すると、コロナの状況下に於いても五十四名の参加を頂き、久々にお会い出来た人、中には「去年は病気をして来られなかったけど今年は来る事が出来ました」と喜びを伝えてくれる人、お子さん連れで参加頂いた人、それぞれに様々な思いを伝えて頂き大変嬉しく思いました。今年も念願であった、道沿いの斜面に移植したツツジの選定を行いました。



このツツジは三十五年ほど前に岩井良晃さんより寄進して頂いたもので、その後長らく手入れらしい事は、ほとんどして来ませんでした。そこで岩井植木さんのご指導の下に皆でやってみようと成りました。急斜面を選定する人、枝を集める人、運搬する人、流れ作業で、わずか半日で仕上げの事が出来ました。心より御礼申し上げます。合掌 亮観拝